花乃井だより 学校通信

令和２年８月６日(木)
第　２０　号
大阪市立花乃井中学校

各学級で平和学習

戦後 75 年の歳月が流れました。毎年この時期には戦争と平和について様々なところで様々な取り組みが行われますが、今年は新型コロナ禍の影響もあって、例年とは少し違う夏になっています。戦争を体験した方々の数が年々減っていきますが、語り継いでいかなければならないことはたくさんあります。現実にこの地球上で戦争はまだ無くなっていないのですから。

（各教室で平和学習）

平和への課題

本校では例年のとおり、各教室で平和学習を行いました。この時期に皆さんに考えてほしいことは、現在から将来に亘って「自分に何ができるのか、何をしなければならないのか」ということです。私たちは歴史の傍観者で終わっては絶対にいけないのです。

特に核兵器については、今や全人類を破滅させてしまう力があります。1945 年の８月６日は広島に、そして同９日には長崎に史上初の原子爆弾が投下されました。この悪魔の凶器は一瞬にして 20 万人以上もの生命を奪い、両街並みを跡形もなく吹き飛ばしてしまいました。その後も多くの方々が被爆により生命を奪われたり、病気や障害に苦しめられてきました。日本は第五福竜丸の被爆（1954 年３月１日ビキニ環礁におけるアメリカ軍の水爆実験）も含めて、世界で唯一、しかも３回も核兵器の被害を受けた国です。

前アメリカ大統領のオバマ氏は、ある演説の中で「私たちは、20 世紀に自由のために戦ったように、21 世紀には、世界中の人々が恐怖のない生活を送る権利を求めて共に戦わなければなりません」と述べ「核兵器のない世界」への人類共闘を呼びかけました。私たち世界の人々には、生存する権利があります。その権利を脅かすものは、核兵器保有国の奥底にあるエゴイズムです。国際社会を私たちの日常生活に置き換えて、国を一人ひとりとしてみても同じことが言えます。人間には自分のことしか考えない悪い心（エゴイズム）が必ずあります。この悪い心にいかに打ち勝っていくか。それが課題です。夏休み中には８

月 15 日も迎えます。今年も「自分に何ができるのか、何をしなければならないのか」ということを考える夏にしてください。

校長談

“戦争”や“平和”というと必ず思い出すことがあります。私は、かつて中国の大連というところで３年間（2005～2008）生活したことがあります。在外教育施設（日本人学校）に教員として派遣されたのでした。

今や世界をリードするようになった中国。そのころの中国も、ちょうど北京オリンピック（2008 年）を目前にしているということもあり、変化と発展は著しいものがありました。そこで感じたことは、まずは人々のものすごいパワー（頑張る力）です。しかしその一方で、様々な課題に苦悩する姿もありました。年中無休で働いても低賃金のために厳しい生活を余儀なくされている人々の何と多いことか。

その中国各地には、今も戦争の傷跡が残っています。私は社会科の教員ということもあり、できる限り時間をつくってはそれらの傷跡を実際に見て回りました。

大連・旅順はもちろんのこと、金州や広州の古戦場跡、瀋陽の平頂山惨案遺址や九・一八事変博物館、ハルピンの第 731 部隊遺址、北京の人民抗日戦争記念館、南京の大虐殺遇難同胞記念館…等々。日本の軍隊が中国の人々にしてしまった絶対に許せないこと。傷ついて苦しんでいる人々の姿、そして、そこにたたずみ涙ぐむおじいさん、おばあさんの姿を目の当たりにしました。それは日本の学校では、ほとんど教えてくれなかったことでした。しかし、そんな辛い過去があったにもかかわらず、大連の人々はみんな優しく接してくれました。『侵華日軍（中国を侵略した日本軍）…』とは冠しても『日本人が…』とはけして言わない歴史認識をもっていました。当時は政治的な問題もあり、日中関係はけして良好ではありませんでした。（日本からの社会科の資料集や備品が日本人学校まで届かなかったり、校外学習などの活動が制限されたり…）難しい課題も多かったですが、大連の方々に大きく助けられながら、何とか最後まで頑張ることができました。当時お世話になった方々には本当に感謝しています。中国では「さようなら」のことを「再見(zàijiàn)」と言います。素敵ですよね。日本に帰国するときにそう言って見送ってくださった方々との交流は、今までもこれからも続いていきます。とても楽しみです。